

入院のタイミングと方法

こんな時は 病院に連絡しましょう



1. 陣痛

自分の意志ではコントロールできない、繰り返し起こる子宮の筋肉の収縮です。

規則的な痛みを感じ始めたら、1時間くらい痛みの間隔をみましょう。

初産婦は10分間隔になったら（1時間に約6回）

経産婦は10～15分間隔になったら（1時間に4～6回）

病院に電話して相談しましょう。



2人目以降の出産の方は前回より早い経過が考えられるので早めに連絡をしましょう



2. 破水

赤ちゃんを包んでいる膜が破れて羊水が出ることを言います。

一度にたくさんのお湯の様なものが出たり、体を動かすと下着が濡れる程度で少量ずつ出る場合があります。

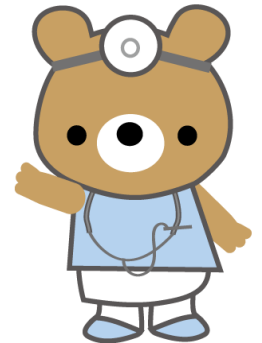
(少量の場合は尿漏れと間違えることがあります)

破水かな?と思ったら、様子を見ずに病院に連絡してください。

※清潔な大きいナプキンを当て、シャワー・入浴は控えてください。



外出先で破水することもあるのでナプキンを持ち歩いていると安心ですね。破水かわからない場合は病院で検査しますのですぐに電話しましょう。



3. 多量の出血

おしるし*とは違い、真っ赤でサラサラした血液が流れる、生理の2日目位の出血の量は、お産の進行に伴う出血としては多いです。
※清潔な大きいナプキンを当ててください。



*おしるし

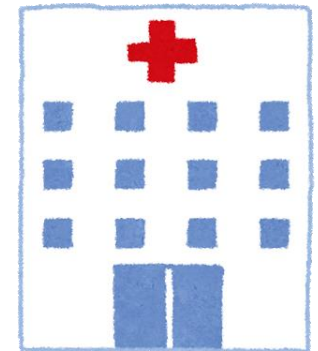
血性のおりものをおしるしといいます。

多量の出血とは違い、うすい血液を混じえた粘液性のおりものです。

おしるしだけの時はお家で様子を見ていても大丈夫です。

4. 持続的な腹痛

本来の陣痛はお腹が硬く痛い時と、お腹が軟らかく痛くない時があります。
お腹がずっと痛みが続く時、
常に張りっぱなしで硬い時は、
胎盤が剥がれかかっている胎盤早期剥離などの
危険な可能性が高いです。



5. 赤ちゃんが動かない

お産が近づくと、赤ちゃんの位置が下がり骨盤内に固定するため、胎動は以前より少ないように感じます。全く動かないことはありません。
※1時間以上胎動を感じないようなら、病院に相談してください。



毎日胎動があるかチェックしましょう。
いつもより極端に胎動を感じられないようなら
相談しましょう。



病院への連絡先 0537-21-5555 (代表)



病院への連絡はこちらの代表番号にご本人がかけてください。
平日の日中は産婦人科外来の看護師が、
夜間などの時間外や休日は4階西病棟の助産師が
電話の対応をさせていただきます。



入院の方法

- 誰に病院まで連れて行ってもらうのか、自家用車かタクシーを呼ぶかなど、決めておきましょう。自分の運転で来るのは、危険なので止めましょう。日中に限らず、夜間の入院にも備えて家族と相談しておくことが大切です。

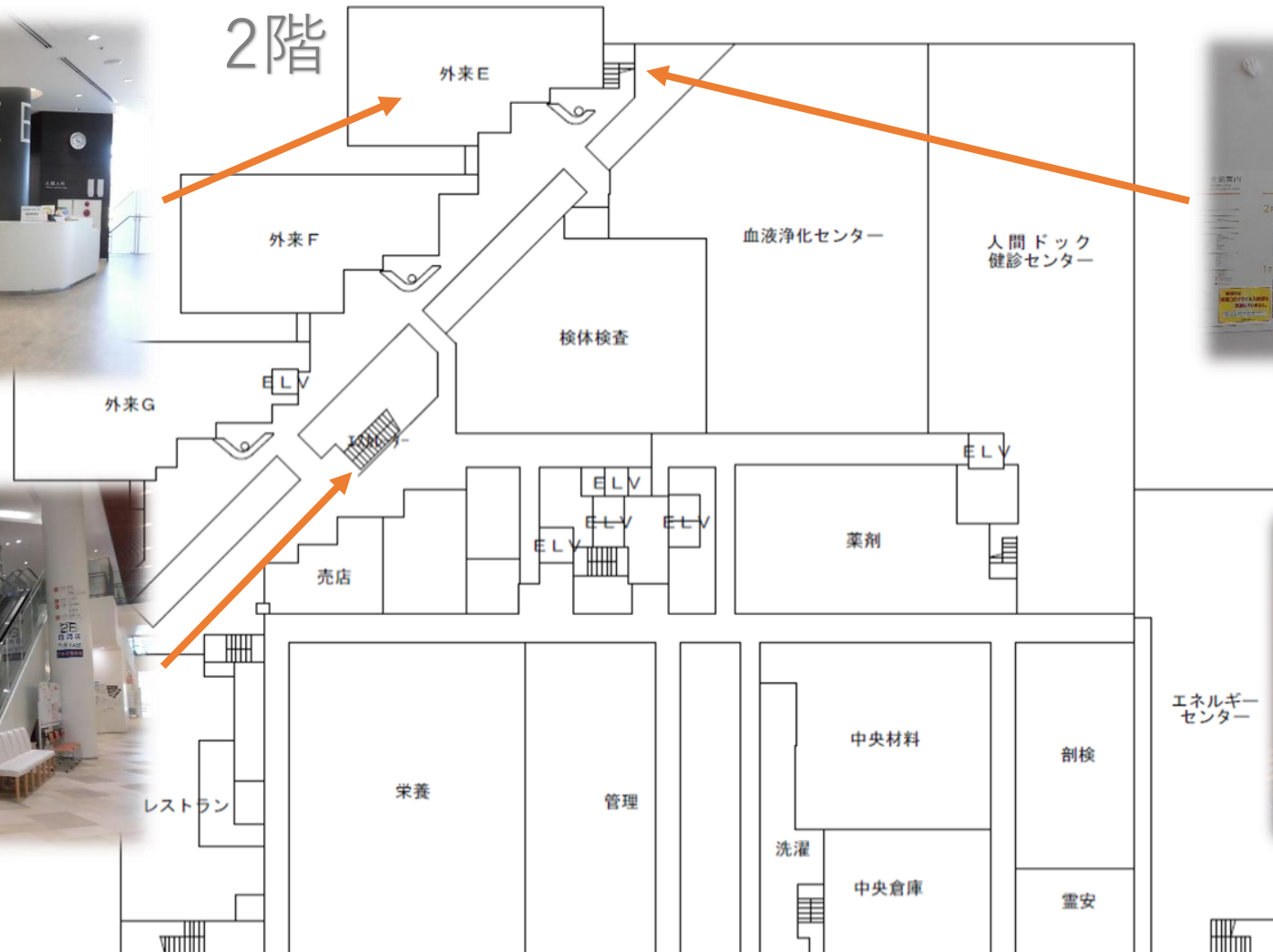


- 入院に必要な持ち物は早めに用意しておき、置いてある場所を家族もわかるように決めておくと、いざという時に出発できます。



受診をすることになったら

平日の日中の場合、正面玄関から入り産婦人科外来に受診します。



1階階段



1階正面玄関

17時以降の夜間や、休日の時間外である場合は時間外専用入り口から入り、救急外来で受付した後、エレベーターで4階西病棟へお越しください。

③



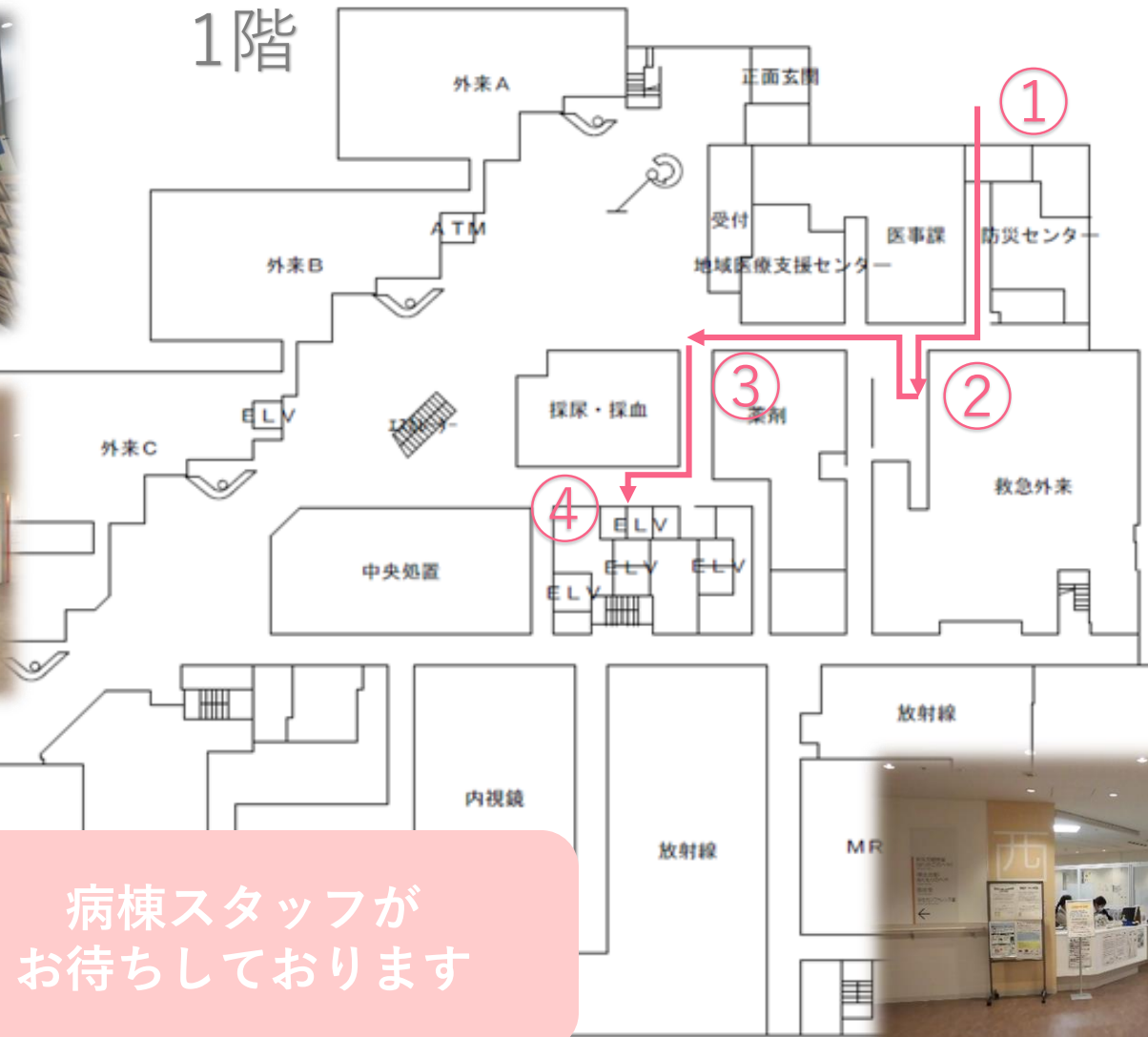
①



④



②



病棟スタッフが
お待ちしております

⑤ 4階西病棟